

環境社会配慮ガイドライン 運用面の見直し結果
第 5 回ワーキンググループ検討分

2015 年 1 月 9 日
国際協力機構審査部

1. 上位計画についての環境社会配慮

1. 1 「環境社会配慮ガイドラインに関するよくある問答集（FAQ）」回答

問：「戦略的環境アセスメントを適用する」とありますが、具体的にはどのような取り組みを行うのですか？

答：協力準備調査のうち、セクターや地域の協力プログラム形成や事業段階より上位の調査が含まれる場合、および開発計画調査型技術協力のマスタープラン調査において、戦略的環境アセスメント（SEA）を適用します。

具体的には、初期環境調査(IEE)レベルで、政策や計画の内容の検討、スコーピング、ベースラインとなる環境社会の状況の確認、影響の予測と評価、プロジェクトを実施しない案を含む代替案の検討、緩和策の検討、情報公開やステークホルダー協議への支援などの取り組みを行います。

1. 2 第 5 回ワーキンググループにおける主要な提言

ワーキンググループ参加の各委員より、以下のような提言がなされました。

- SEA 段階でのステークホルダー協議をどのように行うかについて、今後検討していく必要がある。
- SEA 段階での検討内容や協議内容、情報を十分考慮した上で、プロジェクトレベルでの EIA を実施するよう留意すべきである（「先行評価の活用（ティアリング）」）。
- 環境社会配慮ガイドラインにある「プロジェクトを実施しない案」の考え方を明確にするべき。

2. ベースラインデータの取り扱い・スコーピングフォーマットについて・データの信頼性の確保について

2.1 本テーマに関して、「環境社会配慮ガイドラインに関するよくある問答集（FAQ）」は作成されていないものの、WGでの議論を踏まえ、別紙のとおりスコーピングマトリクス作成の考え方を整理しました。これに基づいて、スコーピング内容の実施及び確認を行います。

2.2 第5回ワーキンググループにおける主要な提言

ワーキンググループ参加の各委員より、以下のような提言がなされました。

- スコーピングにおいて気候変動（GHG 排出）については、JICA の気候変動対策支援ツール/緩和策（JICA Climate FIT（Mitigation））等の方法論に基づきベースラインを設定し、そのベースラインとの比較により緩和効果を判断しているが、気候変動（GHG 排出）についても、他の影響項目と同様、現状を基準点として影響を判断する場合もありうる。
（本提言は、第4回ワーキンググループ「2. 環境社会配慮における気候変動の取扱い」のFAQ に対しても関連する）

以上

スコーピングマトリクス作成に当たっての考え方

別紙

スコーピングマトリクス作成の考え方を、以下の通り整理する。
その際は、「現状」を影響評価の基準点とし、「現状」(影響発生前)と「プロジェクトの実施」(影響発生後)を比較する。

分類		影響項目	評価		評価理由
			工事中	供用時	
汚染対策	1	大気汚染	B	C/B+	工事中に発生する影響は「工事中」で、供用時に発生する影響は「供用時」の欄で評価する。 住民移転のように、工事前に発生する影響については「工事中」の欄で評価するとともに、「評価理由」の欄でその旨、注記する。 工事中に発生して供用後も影響が長く続く場合はその旨を注記し、供用後も緩和策・モニタリングの実施を検討する。 既存施設の解体・廃棄が事業に含まれる場合、「工事中」の欄で想定される影響を評価する。
	2	水質汚濁	B	B	工事中に発生する影響は「工事中」で、供用時に発生する影響は「供用時」の欄で評価する。 住民移転のように、工事前に発生する影響については「工事中」の欄で評価するとともに、「評価理由」の欄でその旨、注記する。 工事中に発生して供用後も影響が長く続く場合はその旨を注記し、供用後も緩和策・モニタリングの実施を検討する。 既存施設の解体・廃棄が事業に含まれる場合、「工事中」の欄で想定される影響を評価する。
	3	廃棄物	B	D	工事中：建設残土や廃材の発生が想定される。 供用時：周辺環境に影響を及ぼすような廃棄物の発生は想定されない。
	4	騒音・振動	B	C	工事中に発生する影響は「工事中」で、供用時に発生する影響は「供用時」の欄で評価する。 住民移転のように、工事前に発生する影響については「工事中」の欄で評価するとともに、「評価理由」の欄でその旨、注記する。 工事中に発生して供用後も影響が長く続く場合はその旨を注記し、供用後も緩和策・モニタリングの実施を検討する。 既存施設の解体・廃棄が事業に含まれる場合、「工事中」の欄で想定される影響を評価する。

ガイドライン別紙5
「チェックリストにおける分類・チェック項目」を原則使用。
ただし、セクター及びプロジェクトの特性を踏まえ、項目を追加、選択可。

評価例：
A+/- (重大な正(+)もしくは負(-)の影響がある)
B+/- (一定程度の正(+)もしくは負(-)の影響がある)
C (影響の有無が不明である)
D (影響は想定されない)
緩和策の実施を前提としない。